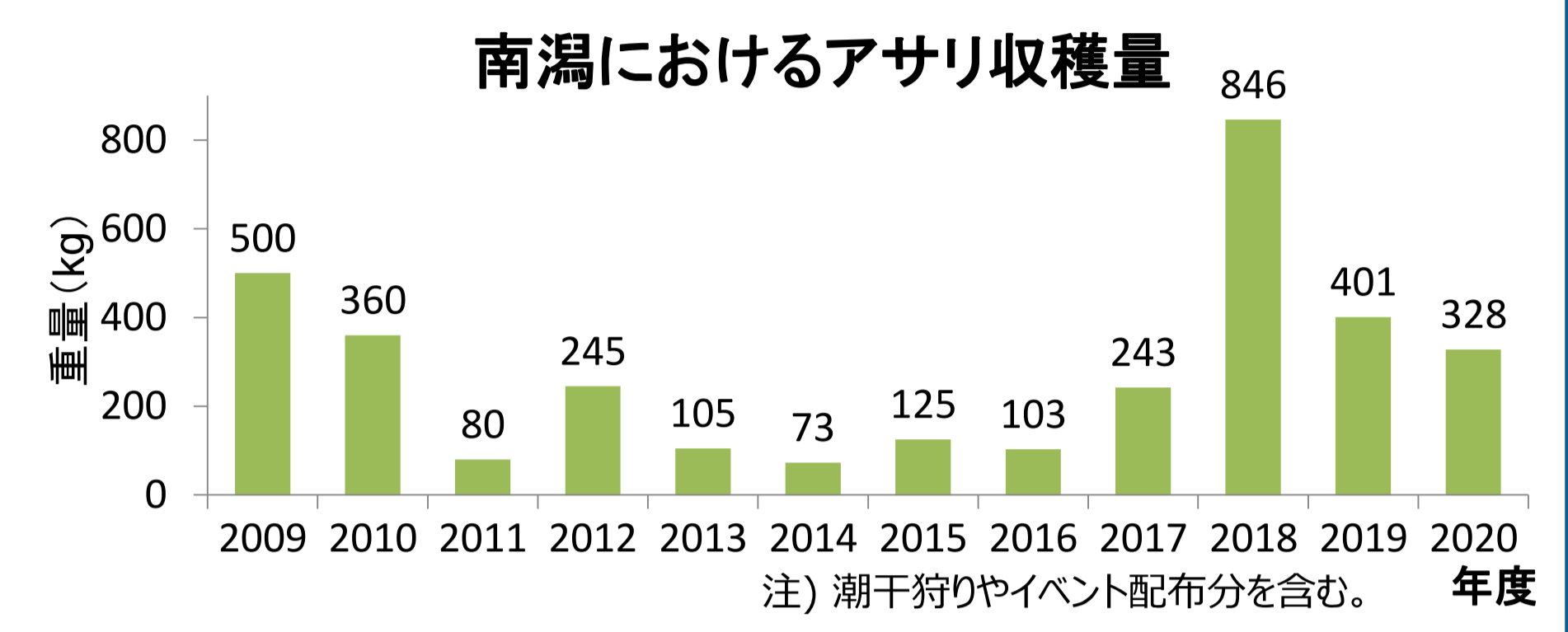
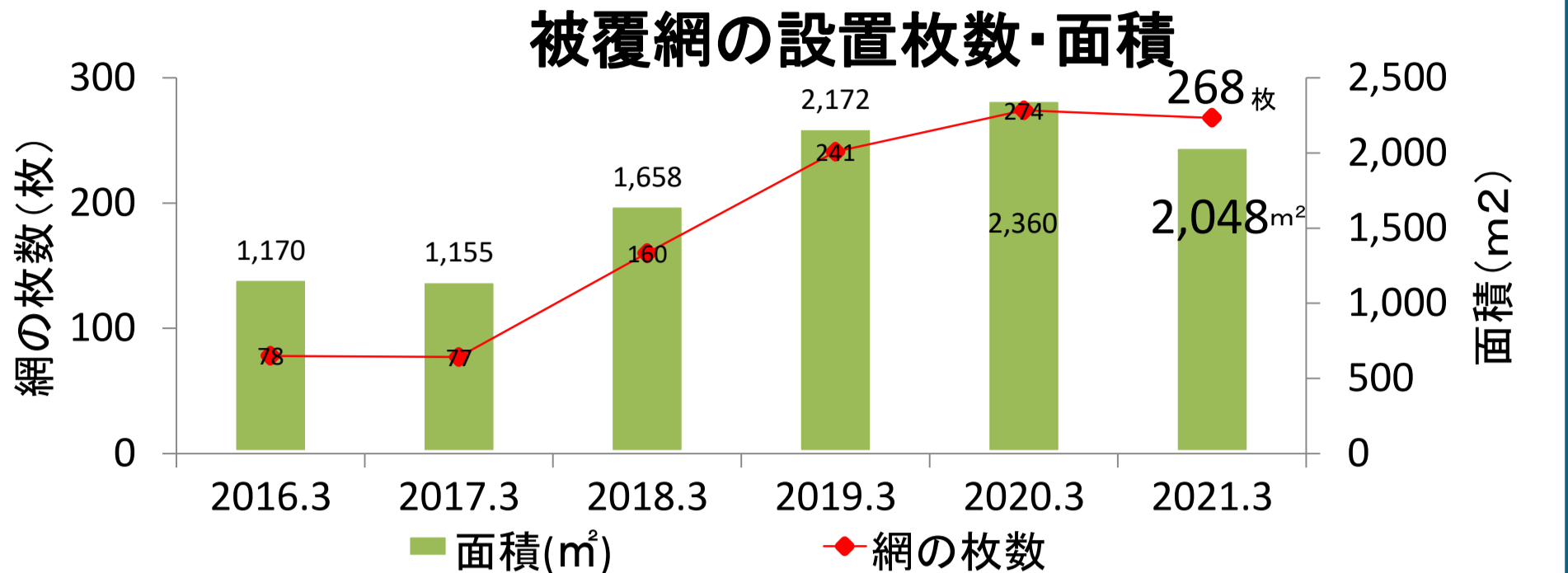
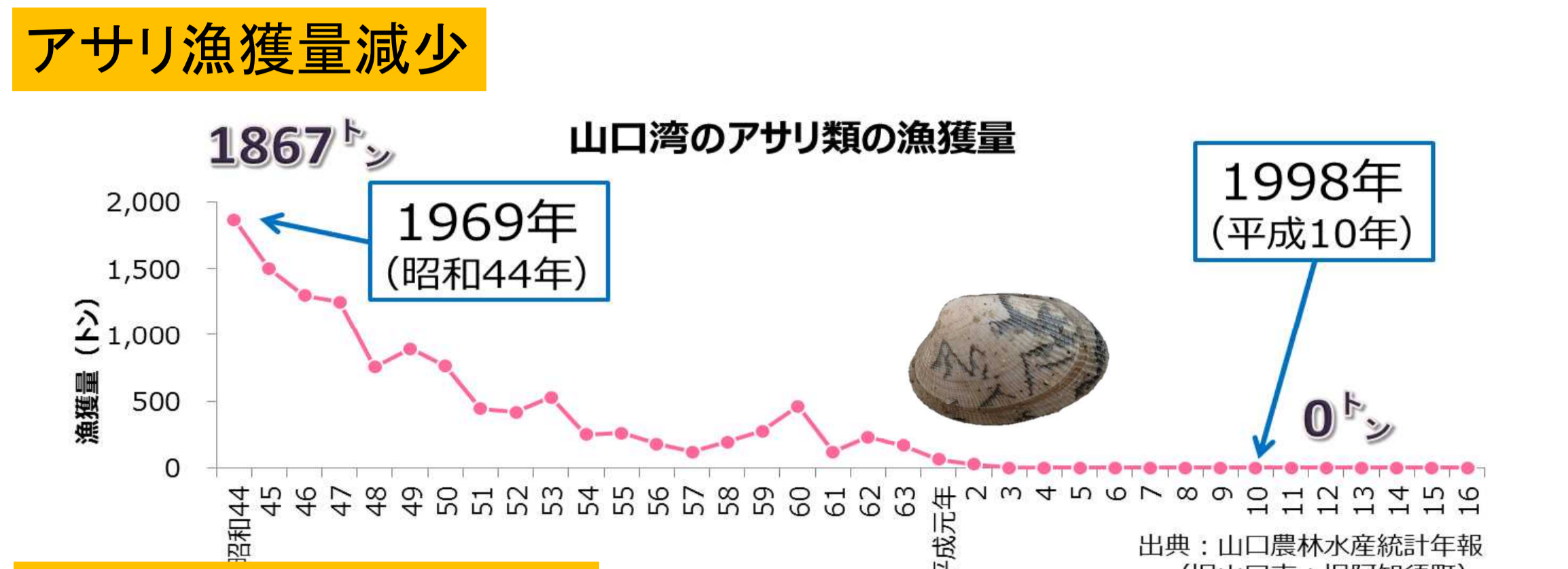


# 山口湾における網袋を用いたアサリ稚貝の育成・保護効果の検討について

○元永直耕・梶原丈裕 (山口県環境保健センター), 川上千尋 (山口県環境政策課), 上原智加 (周南健康福祉センター), 寺本明広 (特定非営利活動法人野鳥やまぐち), 吉永聡 (株式会社水土舎), 矢部徹 (国立環境研究所)

**背景** 山口湾に位置する榎野川河口干潟では、榎野川河口域・干潟自然再生協議会がアサリを指標とした住民参加型の里海づくりを行っている。被覆網の設置等により20年ぶりにアサリが獲れるようになり、潮干狩り等の親水イベントが実施可能となった。



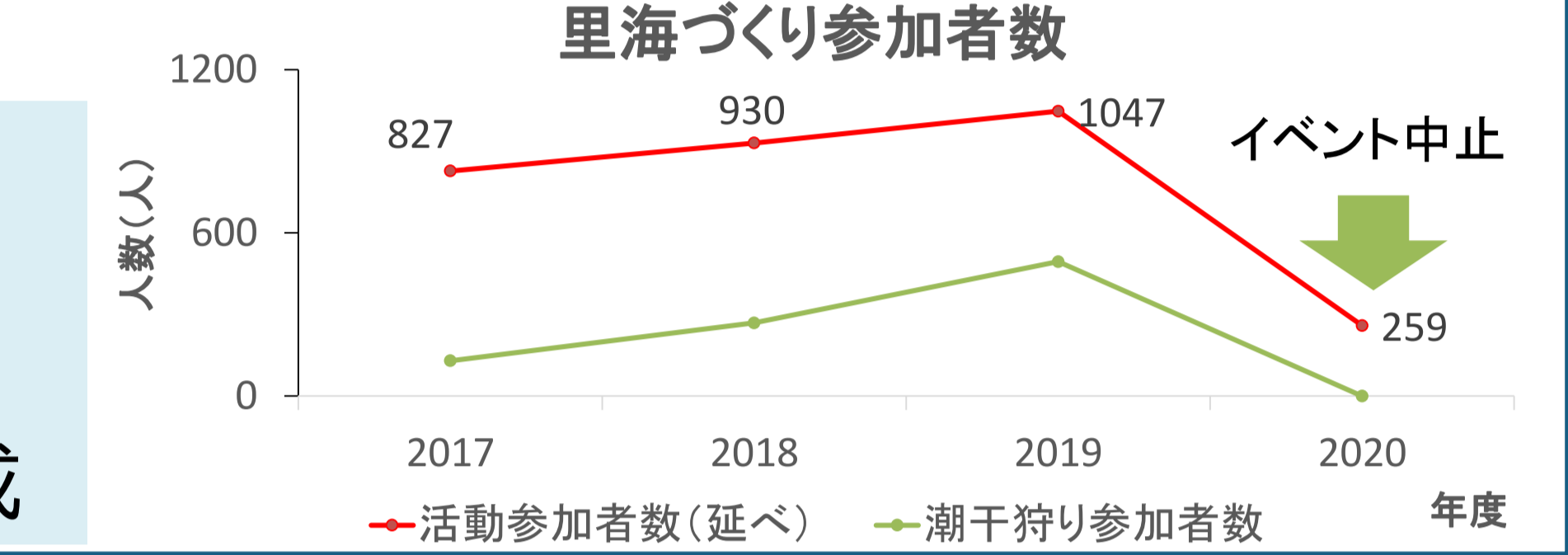
**課題**

- 網の設置数増で管理に負担
- 新規網下にアサリ定着しない場合あり
- イベント中止等による活動者減少

➡ アサリ資源の減少、活動停滞の恐れ

**対策**

- ① アサリの保護・育成の効率化  
⇒大野方式による網袋での稚貝保護
- ② 親水性とアサリネットワークの確保  
⇒「きらら浜自然観察公園」でのアサリ育成



## 大野方式による網袋 (玉ねぎネット) の稚貝保護効果

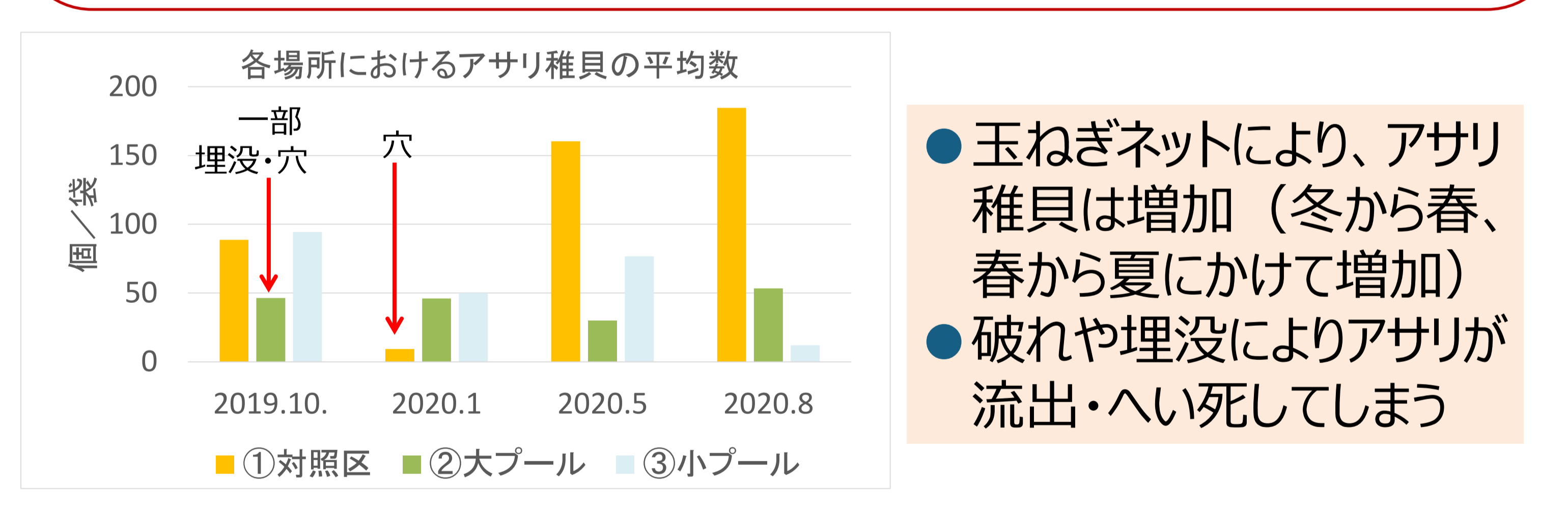
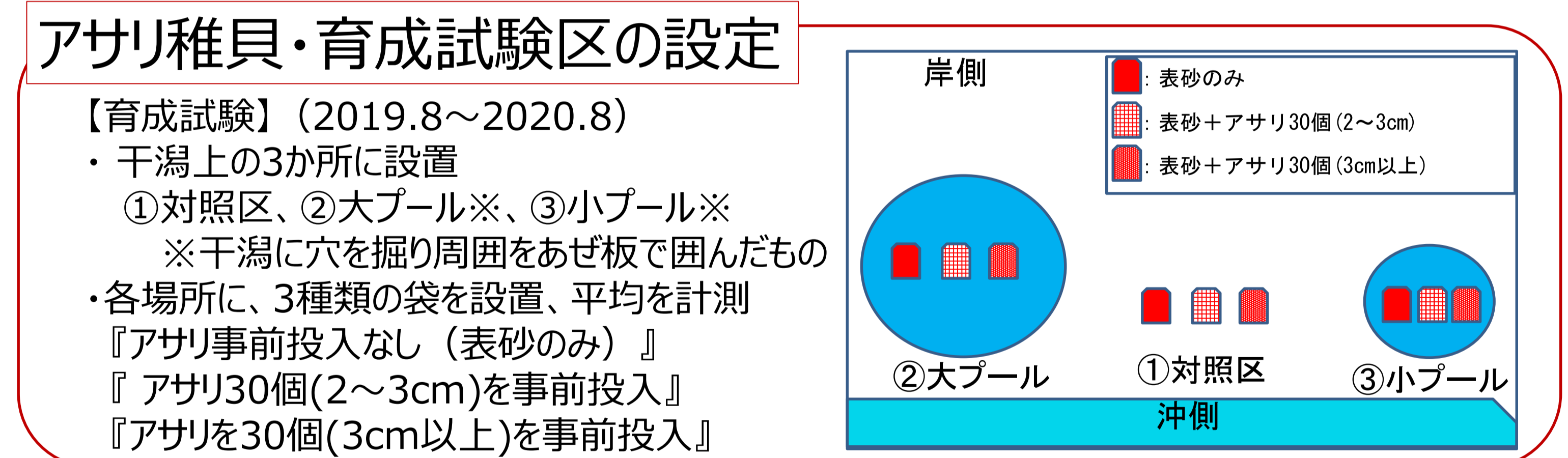
- アサリ稚貝を表砂ごと網袋に入れ保護育成する手法
- 網袋は、市販の玉ねぎネット (5kg用) を使用

**【稚貝の育成の課題】**

- ・被覆網の網目 (9mm) では、波浪等により流出している可能性
- ・被覆網は高価で設置に労力がかかる

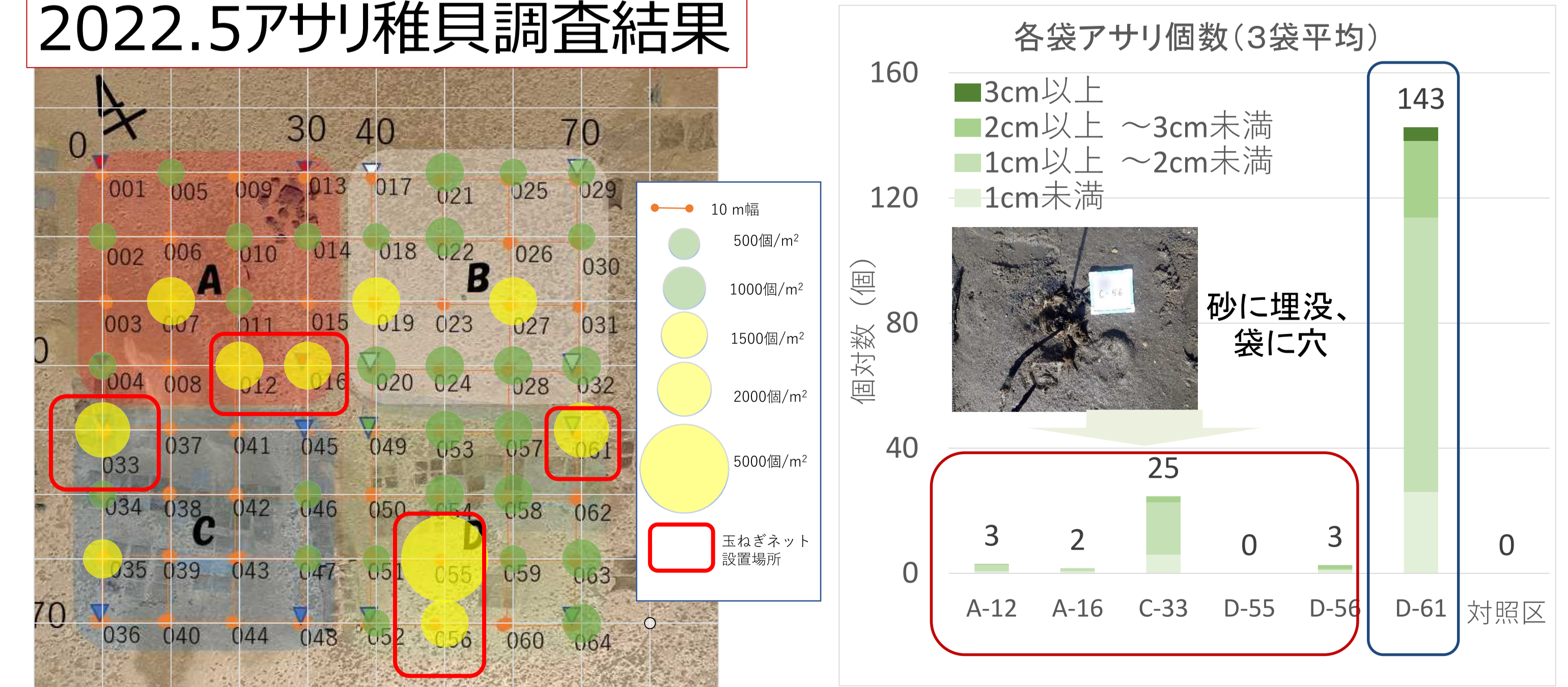
**【玉ねぎネットの特徴】**

- ・目が細かく流出少
- ・立体的で稚貝定着
- ・安価、砂を入れるだけで簡単
- ・糸が細く破れやすい



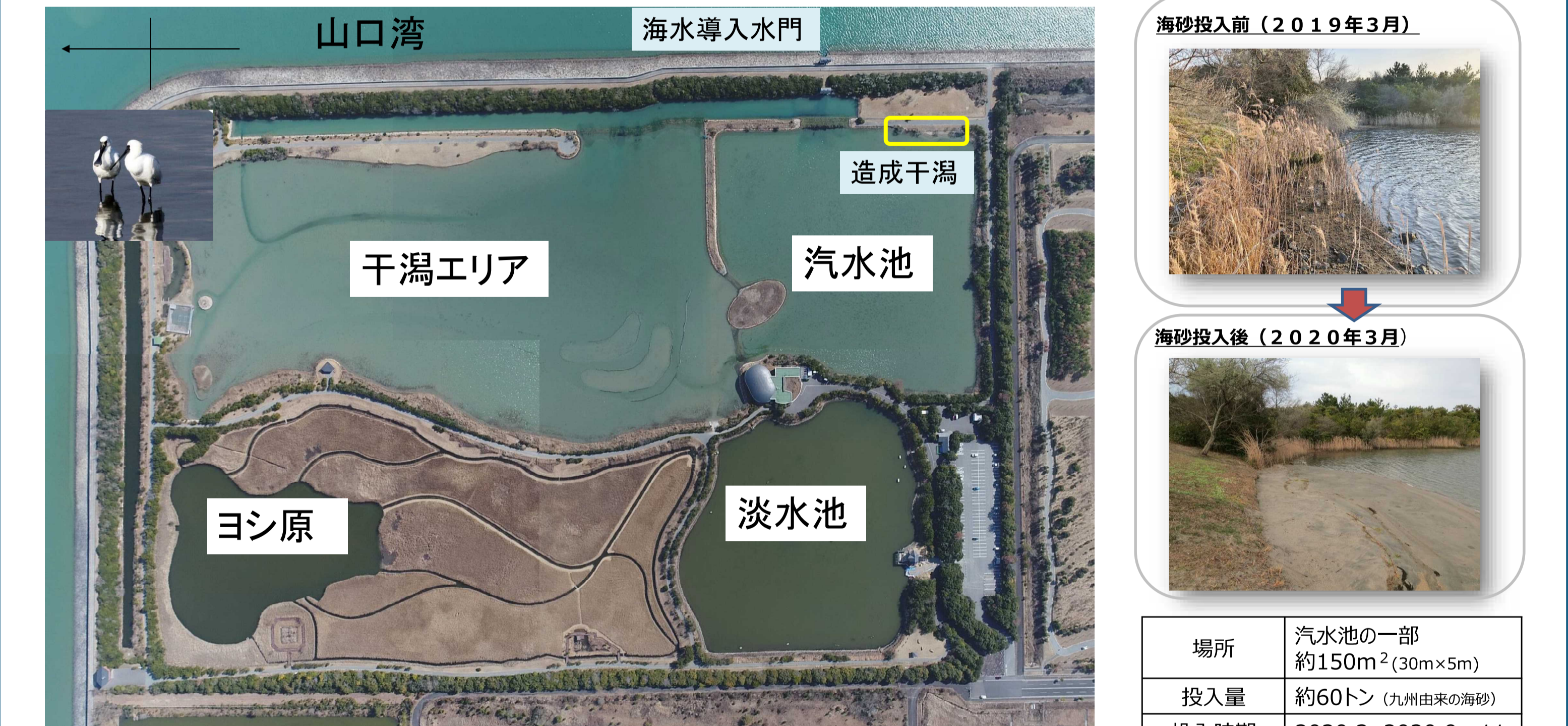
## 稚貝調査と合わせたアサリ保護効果

- 70m区画を10mごと計64地点を塩ビ筒で採泥
- 2mm篩でソーティングし、個数確認 (個/m<sup>2</sup>換算)
- 個数の多い場所に玉ねぎネットを設置 (2022.6⇒10月)



## きらら浜自然観察公園でのアサリ育成

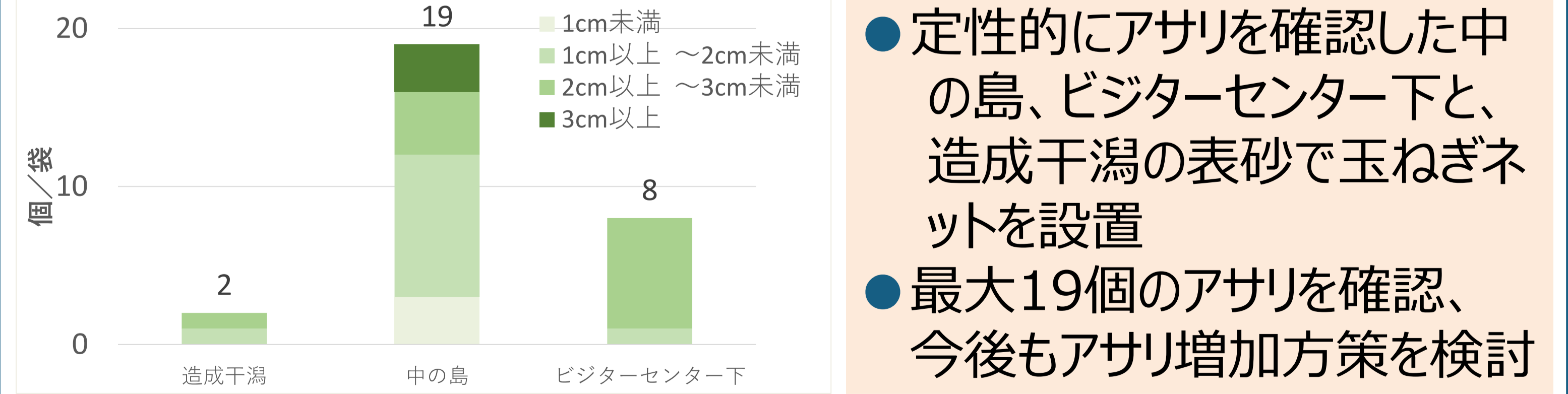
- 山口湾の自然を再現した県立の公園、汽水池の一部に干潟を造成
- 自然観察会などを指定管理者が実施
- 環境学習・親水場の創出や母貝団地形成を目的にアサリ育成を検証



## 2022.5アサリ稚貝調査結果

- 稚貝調査により、園内2か所で500個/m<sup>2</sup>を確認、高泥分のエリアでは確認できなかった。
- 中の島、ビジターセンター下エリアなど一部の場所で定性的にアサリを確認

## 玉ねぎネットによる育成試験 (2022.5⇒8月)



## まとめ

**アサリの保護・育成手法**

- 稚貝調査と網袋の組み合わせにより、アサリの保護・育成手法をさらに検討する。
- 山口湾内のアサリネットワーク化によるアサリ資源保護とともに、親水性向上を目指す。

本発表は、以下の調査研究に関連しています。

- ・II型共同研究「里海里湖流域圏が形成する生態系機能・生態系サービスとその環境価値に関する研究」
- ・榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ふしの干潟いきもの募金 採択研究

山口湾 アサリネットワーク